

デジタルの力で実現する 便利で快適な「スマート東京」

日立東大ラボ・産学協創フォーラム

令和7年10月28日

東京都 デジタルサービス局

次長 佐久間 巧成

「スマート東京」の実現に向けた歩み

2019年12月

都政に関する戦略



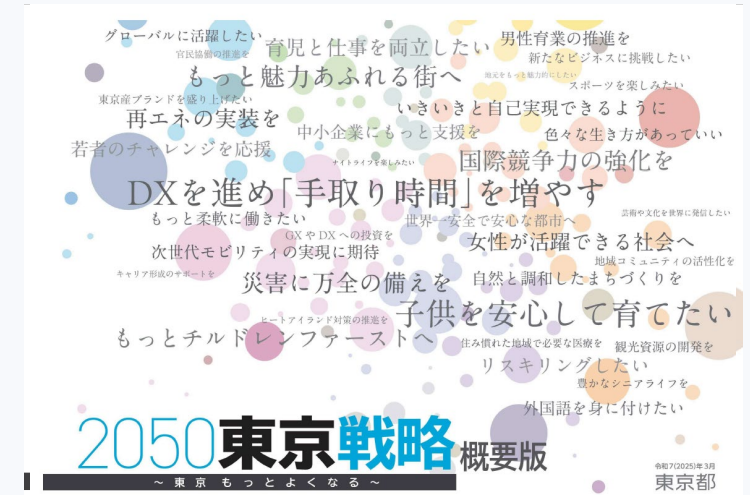
2020年2月

スマート東京実施戦略



2025年3月

東京2050戦略



「スマート東京」の実現を目標に掲げ施策を展開

2050年の未来社会像（「2050東京戦略」より）



はじめに

01 「2050年の未来社会」のビジョン

02 情報社会の発展

03 高度な情報社会の発展

04 「2050年の未来社会」のビジョン

05 参考資料

11

デジタル

2050年代の
ビジョン

世界で最も情報技術を使い、 便利で快適な「スマート東京」

- 行政サービスや人々の生活、街なかなどあらゆる場面でAIなどの情報技術が世界で最も実装され、都民の「**手取り時間**」が多く、QOL（Quality of Life）の高い都市に
- **世界最高の通信環境**のもと、いつでも、誰でも、どこでも、何があっても「**つながる東京**」が実現。官民が連携し、**高度な情報通信で世界をリード**
- **世界で最も情報技術を使い倒すメガシティ**として不動の地位を確立し、東京が世界中の大都市のロールモデルに

186

「つながる東京」の全体方針（「『つながる東京』展開方針」より）

「つながる東京」とは

多様なデジタルサービスが生み出され、誰でもサービスを享受できる社会



データ利活用により様々な社会課題の解決がなされるデータドリブン社会



を実現するために、

あらゆる人やモノが、いつでも、どこでも、何があってもネットワークにつながる東京を目指す



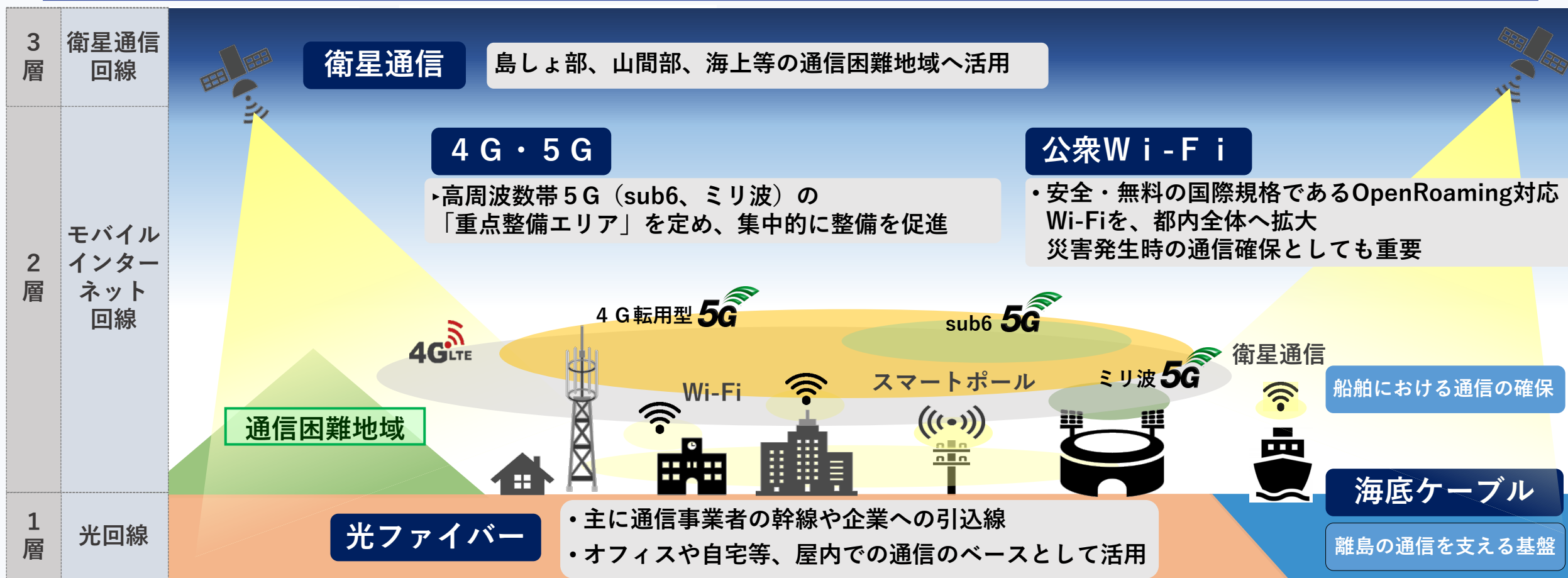
出典：「スマート東京実施戦略」～令和3年度取組～より



4G・5Gに加え、Wi-Fiや衛星など様々な通信手段を適材適所で活用することが鍵

「つながる東京」の全体像（「『つながる東京』 展開方針」より）

多様な通信手段を複合的に活用し、いつでも、誰でも、どこでも、何があっても、
「つながる東京」を着実に推進

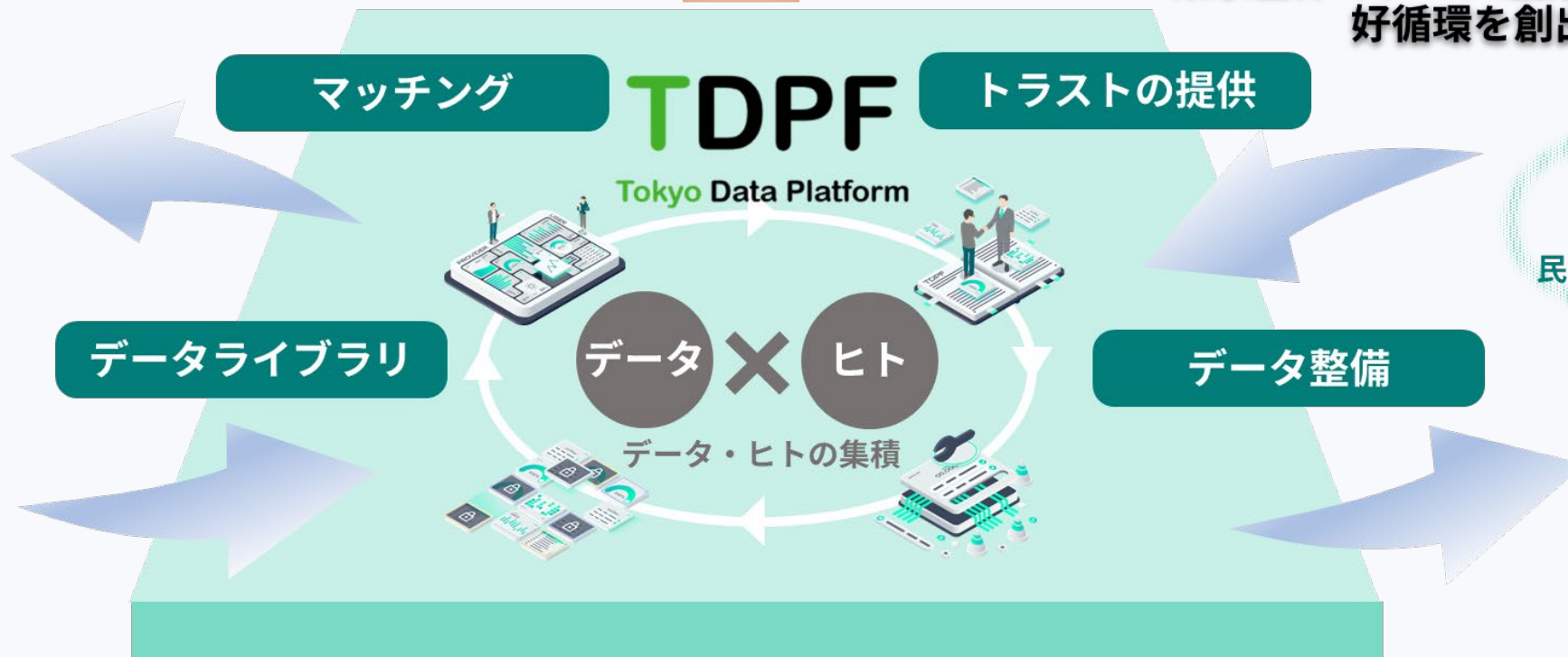


テクノロジーの活用 ～東京データプラットフォーム（TDPF）～

SMART TOKYO

AI×ビッグデータ・パーソナルデータ等の活用により、新たな価値を創出

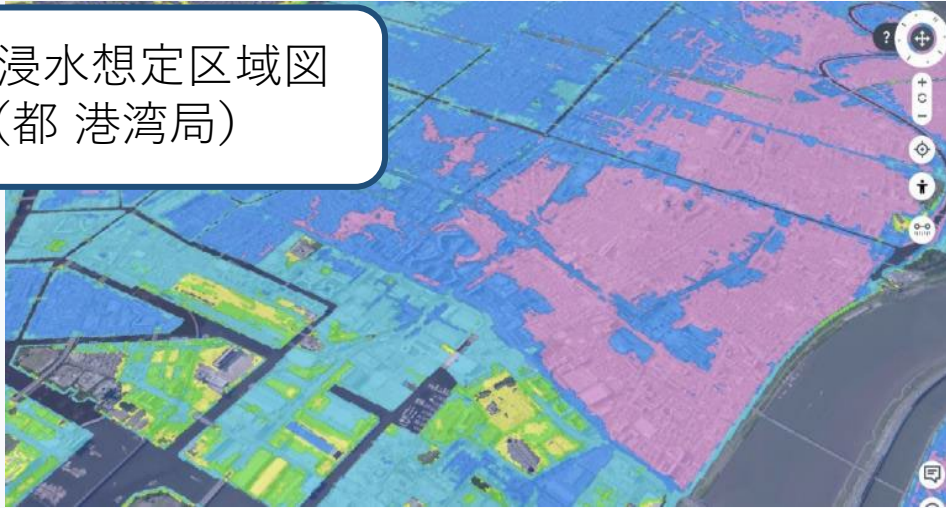
東京全体でデータ連携・利活用の好循環を創出



テクノロジーの活用 ～デジタルツイン～

東京デジタルツインプロジェクトでは、都市をサイバー空間上に再現し、防災・減災・復興支援等の取組に活用

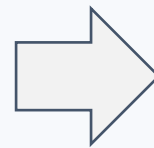
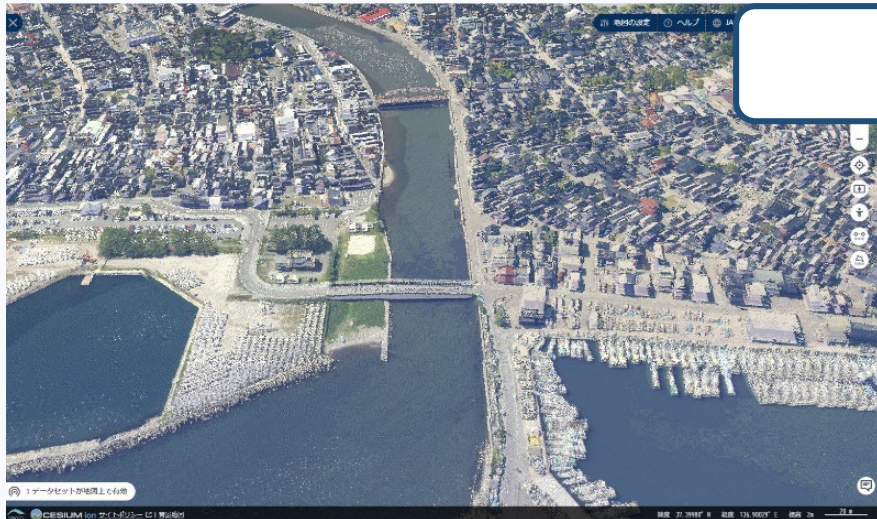
高潮浸水想定区域図
(都 港湾局)



内水浸水シミュレーション
(調布市)



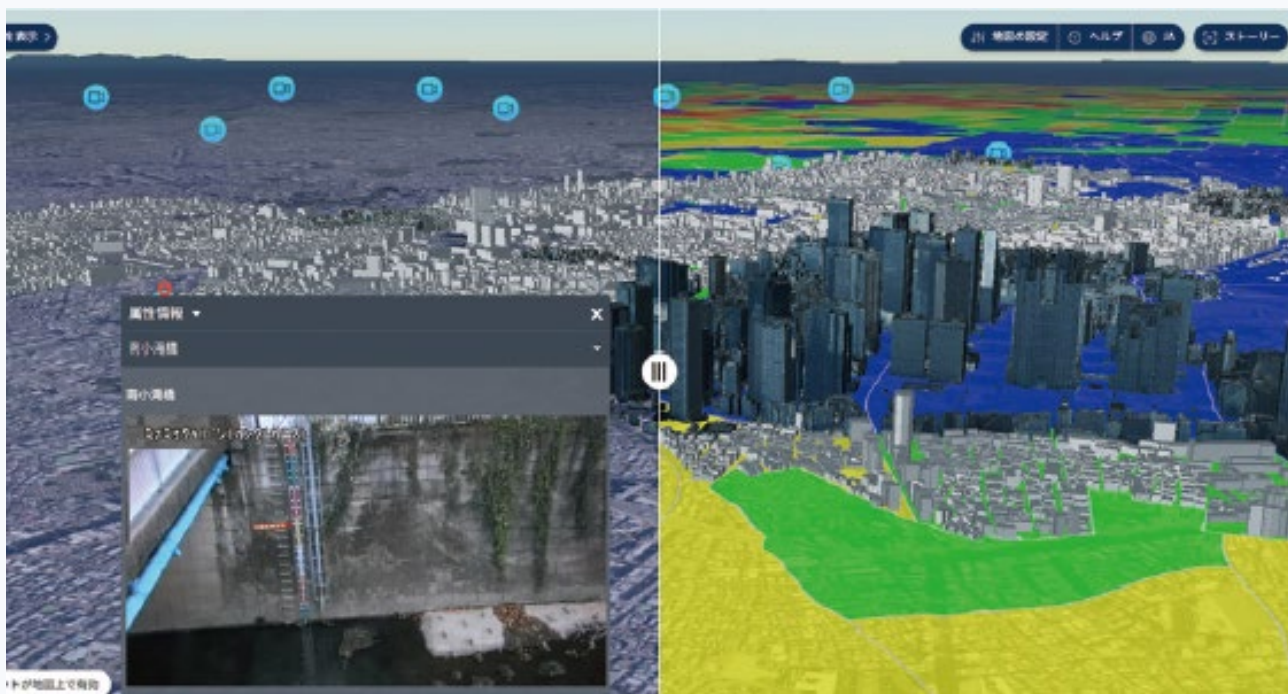
能登半島地震発災前後比較



テクノロジーの活用 ～デジタルツイン、AI～

- 東京デジタルツイン 3Dビューアに搭載されている様々なデータを重ね合わせることで、都市の状況を包括的に把握
- 気象データ等のAI解析により、水門操作を支援

デジタルツイン3Dビューア



AIを活用した高潮時の水位の予測



東京都公式アプリ（東京アプリ）



- 様々な機能を実装しながら、現在はバラバラになっている行政への窓口を、**東京アプリで一つにつなげていきます**

<現状>

- ・行政サービスへのアクセス方法がバラバラ



- ・まずは東京アプリが様々なサービスやアプリと連携



<将来的に>

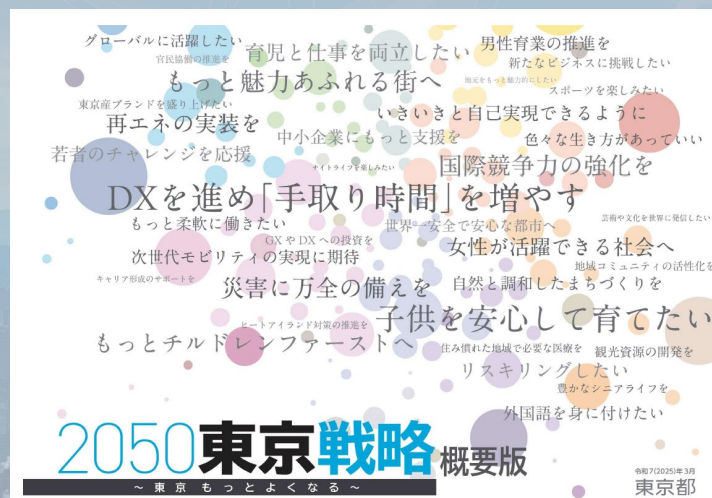
- ・東京アプリで**行政サービスを一元化！**

東京都・区市町村の様々な
コンテンツのプラットフォームに



ご清聴ありがとうございました。

東京2050戦略



SMART CITY TOKYO リニューアル

